

メタセコイア (土屋中学校の樹)

< 学校教育目標 >

～ 夢に向かって ～

第2号

令和 8年 4月 30日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

『 ランドセル 』

校長 小熊 誠

土屋の朝は、生徒たちの気持ちの良いあいさつで始まります。正門で生徒たちを迎えていると、体全体に降り注がれるあいさつのシャワー。毎朝、本当に幸せです。特に今年は、遠くから「おはようございます」と満面の笑顔で語りかけてくる生徒が増えました。学校の主役である生徒たち、様々な場面で輝き始めています。しかし一方、新しい環境に馴染めず、不安を抱き、心や体調に違和感を感じ初めている生徒たちも出始めてきています。保護者・地域の皆様今が大切な時です。そこで、土屋では4月を全担任が生徒の登校時間である8時15分に教室で元気なあいさつと笑顔で出迎え、生徒たちの声、表情、新しい人間関係をしっかりと把握する強化月間として取り組んでいます。皆様も是非、御家庭や地域での生徒たちの言動に御注目ください。そして、生徒たちの発する小さなサインも見逃すことなく、共に手を取り、情報共有に務めて参りましょう。それが、生徒たちが、主役らしく輝くために、私たち脇役としての最大の仕事であると思います。どうぞよろしくお願ひします。

さて、息子の大学の入学式が終わり、息子の荷物を整理していると、息子の青いランドセルが出てきました。私は、ランドセルを見ると思い出す親子がいます。それは、1年だけ小学校の教頭をしていたときの卒業式のことです。卒業式が終わり、正門で卒業生たちを送り出していると、ある親子が私に近づいてきました。いつも遅刻ギリギリに駆け込んでくる親子です。そのお母さんは、私にお礼の言葉と共に、息子のランドセルを見せながら話をしてくれました。そのランドセルの背の上の方にはかすかに「手の跡」のようなものが染みこんでいました。お母さんは、毎日、朝寝坊で支度の遅い息子を玄関で「いってらっしゃい」と言いながら、「今日も元気で頑張るのよ」という思いを込めてランドセルの背を押していたそうです。そして、息子は6年間休まず登校できたそうです。このランドセルにある「手の跡」は、私の6年間の思いの集大成ですと大事そうにランドセルをさすっていました。息子は、照れくさそうに「ありがとう」と微笑んでいました。素晴らしい母の愛です。素晴らしい親子です。幸せを感じました。この「手の跡」には、母親の大きな愛がいっぱい染みこんでいます。お母さんの愛の証です。そして息子はその愛をしっかりと受け止めています。その親子は、「このランドセルは宝物です。絶対に捨てられません」とも話されていました。そして右上がうちの息子のランドセルです。息子のランドセルには「手の跡」はありません。私もカミさんも仕事から息子を家から「いってらっしゃい」とランドセルの背を押して送り出したことがほとんどありませんでした。それでもランドセルについている傷の一つ一つから、当時の息子の様子が浮かび上がってきました。私たちなりの愛を注いだ証です。息子の青いランドセル。やはり宝物です。保護者の皆様、皆様のお宅のランドセルいかがですか？もうランドセルの背の上を押すことは無くなりました。しかし、お子様を送り出すときの思いと愛は永遠です。これからは、変わらぬ思いと愛で、ランドセルの代わりに、お子様の制服を見守り、背中を押してあげてください。そしてもし制服にある小さなサインに気が付いたら、私たちと情報を共有し、共に寄添い、見守って参りましょう。それが、私たち脇役が、絶対の守護神へと進化する一番の近道であると確信しています。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



希望の登校 笑顔の活動 満足の下校